

姫路市地域公共交通会議陸運分科会（ネットワーク全体の評価）

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

「姫路市総合交通計画（平成 28 年 3 月改定二版策定）」において、「魅力ある賑わいある都心と多核連携型都市構造の成形に向けた交通体系の構築」を基本理念に掲げ、①公共交通の利便性向上、②公共交通の利用環境改善、③参画と協働の推進の 3 つの柱に沿って施策推進を図っている。

具体的な施策の一つとして、公共交通空白・不便地域に対し、地域の需要に応じた公共交通手段の導入を進めることとしている。

（家島地域特性と基本方針）

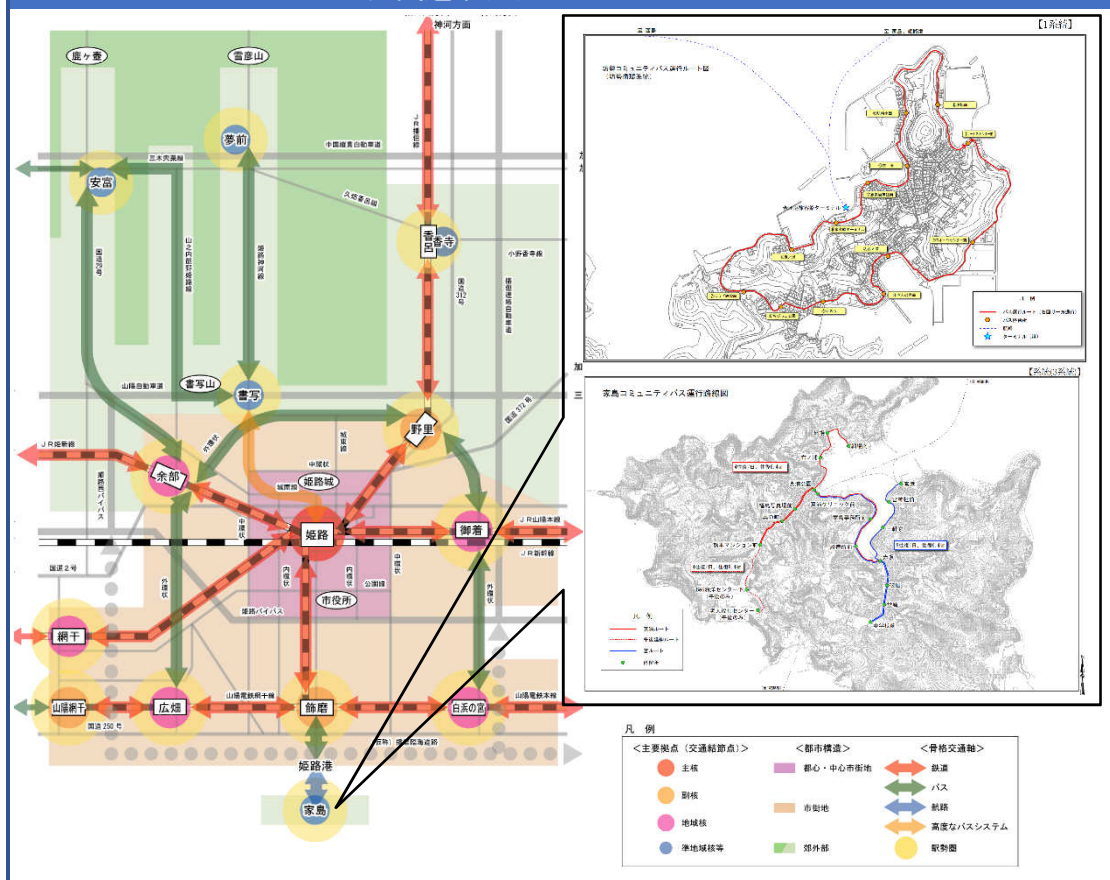
○地域特性

- ・家島本島及び坊勢島では、バス及びタクシー事業者が無く、公共交通空白地
- ・島内の移動手段は、徒歩や二輪が大半

○基本方針

- ・高齢化の進行や港から各集落までの交通手段導入を求める声が高まり、地域住民の移動交通手段確保と地域の活性化に資するコミュニティバス（市町村運営有償運送（交通空白輸送））を導入し、継続運行中である。

公共交通ネットワークのイメージ図



2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

○事業の目標値

(坊勢コミュニティバス) 1日あたりの乗車人員：25人

(家島コミュニティバス) 1日あたりの乗車人員：50人

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

・コミュニティバス概要		
	坊勢コミュニティバス	家島コミュニティバス
事業手法	市町村運営有償運送(交通空白輸送)	市町村運営有償運送(交通空白輸送)
運行の担い手	坊勢区会(地元自治会)	宮区会(地元自治会)
ルート	島内巡回ルート	宮地区・真浦地区を中心とした2ルート ※真浦ルートのみ、午後は一部延伸
運行日・便数	月～水・金曜日は15便 木・土曜日は7便	月～金曜日：16便 (6～9月の土曜日：6便)

運行開始後も、利用者・地元自治会の意見を踏まえ、ニーズの変化や定期船ダイヤ改正に対応すべく随時運行計画を見直している。

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
坊勢コミュニティバス	姫路市	H24.10.1～	フ	運行系統名：坊勢循環 坊勢島内の「サービスセンター前～西ノ浦～サービスセンター前」を巡回運行
家島コミュニティバス	姫路市	H27.4.1～	フ	運行系統名：真浦線1、真浦線2、宮線 家島島内の真浦地区を中心に真浦線(真浦線1は午前便、真浦線2は午後便)、宮地区を中心に宮線を運行

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
再策：再編計画策定事業、再推：再編計画推進事業

その他補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
坊勢コミュニティバス	●各世帯に時刻表チラシを配布及び自治会集會にて周知	事業目標の達成
家島コミュニティバス	●自治会会報にて利用促進の啓発文を掲載 ●各世帯に時刻表チラシを配布及び老人会集會にて周知	事業目標の達成

4. 具体的取組に対する評価

【坊勢コミュニティバス】

目標 25 人/日に対し、実績 49.9 人/日であり、目標を達成できた

【家島コミュニティバス】

目標 50 人/日に対し、実績 43.0 人/日であり、目標を達成できなかった。

(原因)

島内の急激な人口減少（島外への転出も含む）、よく利用されていた高齢者の死亡等が主な原因と考えられる。

	H27.9末	H28.9末	H29.9末	H30.9末	R1.9末
合計	3,226	3,094	2,959	2,780	2,695
(内訳)					
65歳以上	1,269	1,285	1,289	1,291	1,274
15歳～64歳	1,727	1,612	1,504	1,347	1,294
14歳以下	230	197	166	142	127
増減(前年度比較)	-	-132	-135	-179	-85

出典 姫路市統計情報

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課題	課題への対応方針
今後も利用者ニーズの把握に努め、利用促進活動を継続していく必要がある。	利用者アンケートや運転員連絡会議等を通じて、利用者ニーズの把握に努め、利用促進に繋がる運行ダイヤを検討していく。 また、新たな利用者の獲得に向け、MM等の利用促進活動にも取り組んでいく。

姫路市地域公共交通会議陸運分科会（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況		
昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>地域と行政の協働により島内唯一の公共交通の運行を継続しており、特に労働環境の改善により比較的若年層のドライバーを地域で確保している点は評価できる。</p> <p>平成30年に予定されている「ぼうぜ医院」の移転は、コミュニティバスによる通院の習慣化を促すきっかけとなり得るため、通院者その他の関係者の意見に十分に耳を傾けた上で運行計画を決め、早めにダイヤ等を周知されたい。</p> <p>また、観光客等の来訪者にも島内移動手段の選択肢の一つとして認識いただけるよう、定期船や観光のホームページにダイヤを掲載するなどの工夫をすることが考えられる。</p>	<p>（坊勢地域）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運転員や運行管理者と意見交換を通じ、平成30年10月のダイヤ改正に対する改善点を整理した。 ● 新設道路への乗入れに関する新たな要望があり、アンケート調査を実施し、更なるダイヤ改正の検討を行った。 ● 来訪者への情報発信のため、ジョルダン、駅すばあと、ナビタイムへの情報提供を行っている。 <p>（家島地域）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運転員及び運行管理者と連絡を密にし、利用者ともコミュニケーションを取っている。 ● 老人福祉センターへの午前中の運行への新たな要望があり、アンケート調査を実施し、ダイヤ改正を検討した。 ● 来訪者への情報発信のため、ジョルダン、駅すばあと、ナビタイムへの情報提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域・利用者の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。 ● 令和元年10月に新設道路への乗入れを含むダイヤ改正を実施し、利用改善に取り組んでいる。 ● ダイヤ改正に伴う積み残しや定期船接続等の影響を検証し、ダイヤの再調整等を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域・利用者の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。 ● 令和元年10月に老人福祉センターへの午前便運行に伴うダイヤ改正を実施し、利用改善に取り組んでいる。 ● 目標達成に向け、MMの実施、運行見直し等の新たな利用者の掘り起しなどを通じ、利用改善に取り組んでいく。

2. アピールポイント、特に工夫した点など
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域との協働により、運行計画を立案し、運行についても行政と自治会で連携して実施している。 ● 自治会が運行を担い、地域住民が運転しているため、利用者との距離が近く、地域に密着した運行を行っている。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月●日

協議会名： 姫路市地域公共交通会議陸運分科会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
姫路市	<p>【坊勢地域】 運行系統名:坊勢循環 坊勢島内の「サービスセンター前～西ノ浦～サービスセンター前」を巡回運行 ミニバンサイズ車両1台で運行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●運転員や運行管理者と意見交換を通じ、平成30年10月のダイヤ改正に対する改善点を整理した。 ●新設道路への乗入れに関する新たな要望があり、アンケート調査を実施し、更なるダイヤ改正の検討を行った。 ●来訪者への情報発信のため、ジョルダン、駅すばあと、ナビタイムへの情報提供を行っている。 	A 計画どおり事業が適切に実施できた。	A 目標25人/日に対し、実績49.9人/日であった。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域・利用者の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。 ●令和元年10月に新設道路への乗入れを含むダイヤ改正を実施し、利用改善に取り組んでいる。 ●ダイヤ改正に伴う積み残しや定期船接続等の影響を検証し、ダイヤの再調整等を図る。
姫路市	<p>【家島地域】 運行系統名:真浦線1、真浦線2、宮線 家島島内の真浦地区を中心に真浦線(真浦線1は午前便、真浦線2は午後便)、宮地区を中心に宮線を運行。 真浦線及び宮線それぞれをミニバンサイズ車両各1台で運行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●運転員及び運行管理者と連絡を密にし、利用者ともコミュニケーションを取っている。 ●老人福祉センターへの午前中の運行への新たな要望があり、アンケート調査を実施し、ダイヤ改正を検討した。 ●来訪者への情報発信のため、ジョルダン、駅すばあと、ナビタイムへの情報提供を行っている。 	A 計画どおり事業が適切に実施できた。	B 目標50人/日に対し、実績43.0人/日であった。 (原因) 島内の急激な人口減少(島外への転出も含む)、よく利用されていた高齢者の死亡等が主な原因	<ul style="list-style-type: none"> ●地域・利用者の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。 ●令和元年10月に老人福祉センターへの午前便運行に伴うダイヤ改正を実施し、利用改善に取り組んでいる。 ●目標達成に向け、MMの実施、運行見直し等の新たな利用者の掘り起しなどを通じ、利用改善に取り組んでいく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

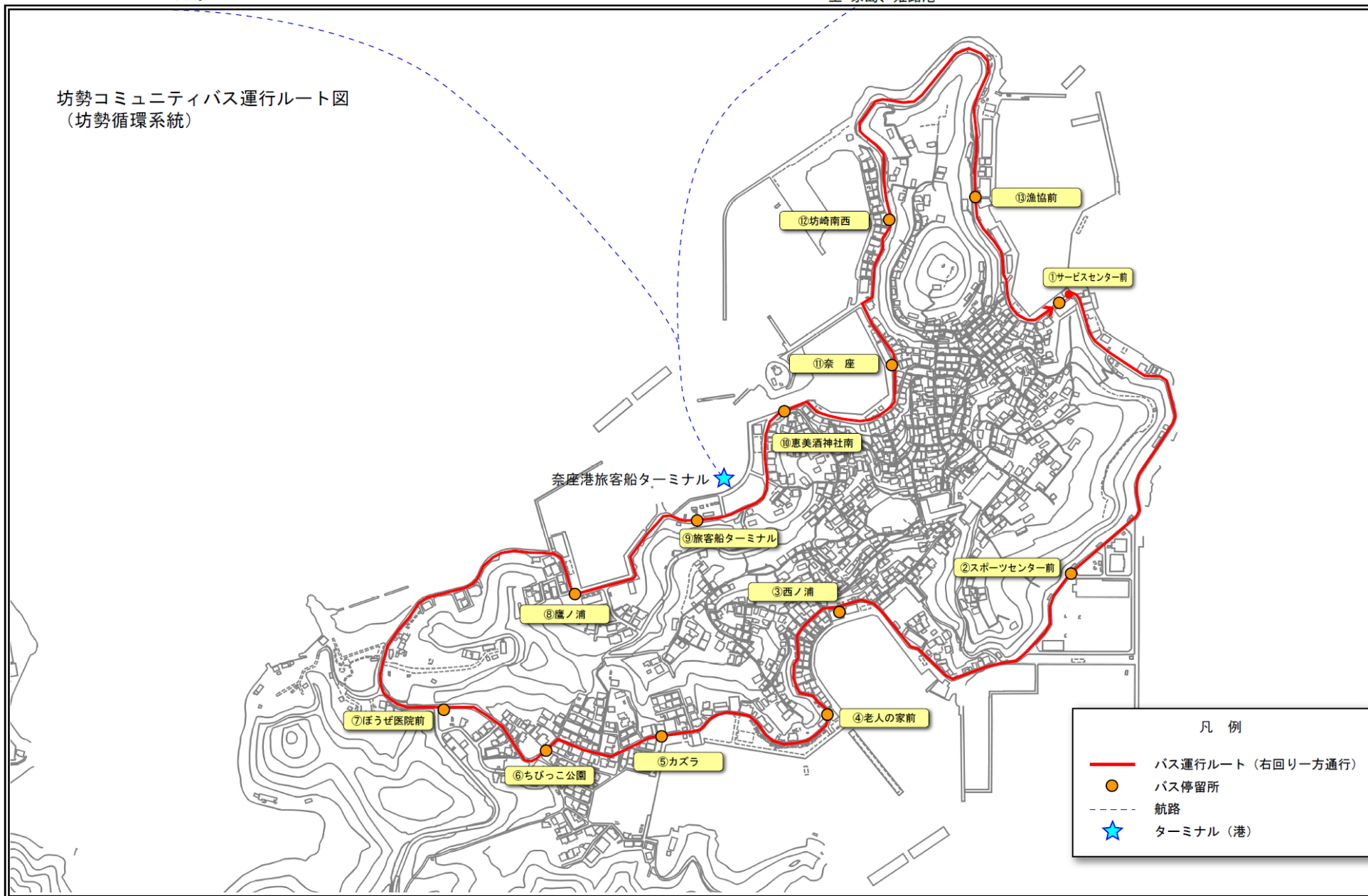
令和2年 1月 ●日

協議会名:	姫路市地域公共交通会議陸運分科会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>「姫路市総合交通計画(平成28年3月改定二版策定)」において、「魅力ある賑わいある都心と多核連携型都市構造の成形に向けた交通体系の構築」を基本理念に掲げ、①公共交通の利便性向上、②公共交通の利用環境改善、③参画と協働の推進の3つの柱に沿って施策推進を図っている。</p> <p>具体的な施策の一つとして、公共交通空白・不便地域に対し、地域の需要に応じた公共交通手段の導入を進めることとしている。</p> <p>【家島地域特徴と基本方針】</p> <p>離島のためバス・タクシー等の交通事業者の参入がなく、全くの公共交通空白地域である。また島内の移動は徒歩や二輪が大半を占めている。</p> <p>本地域においても高齢化や地理的要因のため、港から各集落までの公共交通導入を求める声が高まり、定期船発着場である旅客船ターミナルを起点とした地域内フィーダー系統としてコミュニティバス(市町村運営有償運送(交通空白輸送))を導入し、運行中である。</p> <p>地域と行政の協働で運行計画の立案・コミュニティバス運行を行っており、今後も地域と行政が連携し「地域の足」として継続的に運行を続けたい。</p>

至 西島

至 家島、姫路港

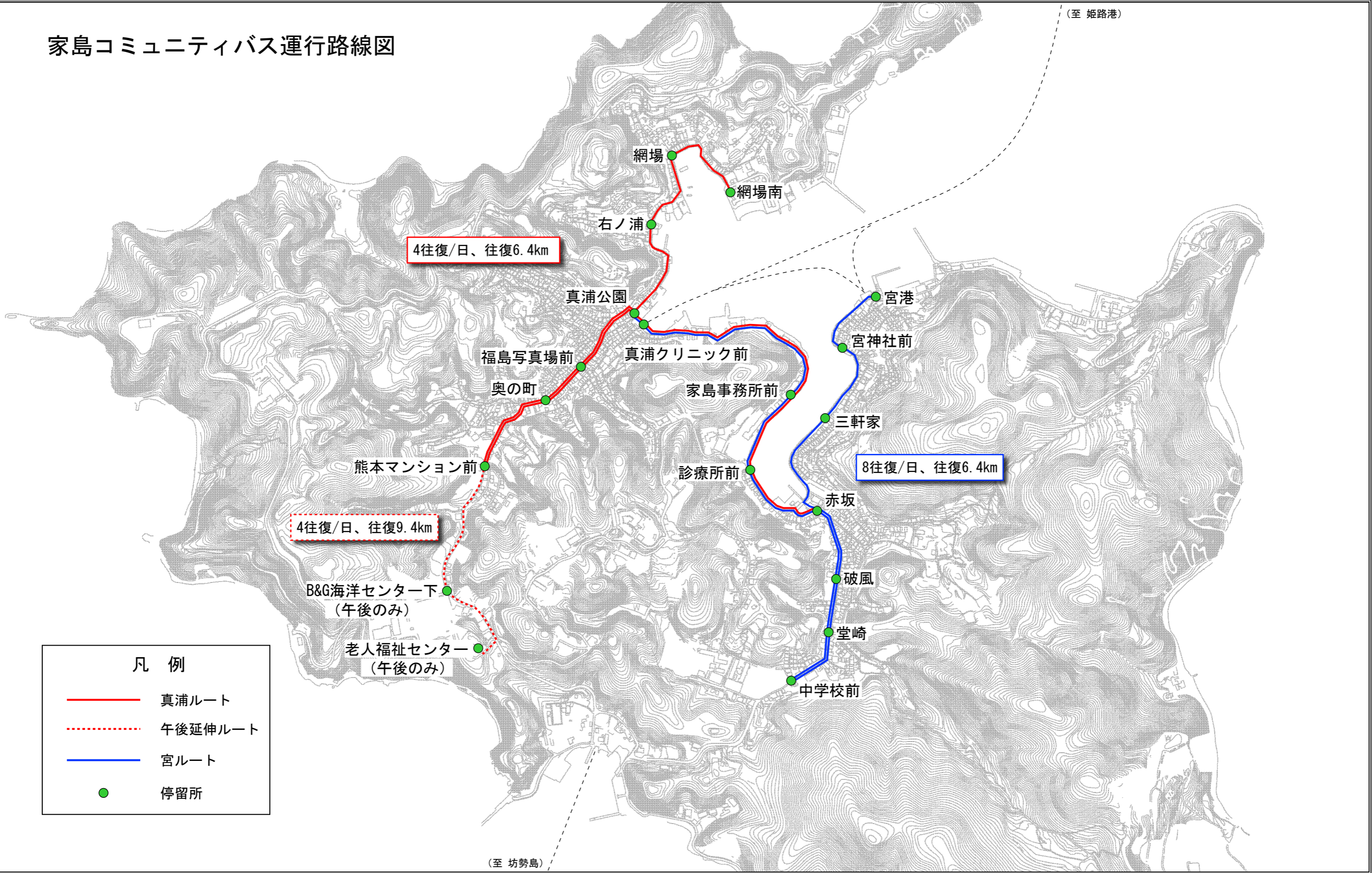
坊勢コミュニティバス運行ルート図
(坊勢循環系統)



縮尺 1 : 6000

0 39.9 79.8 160 239 319m

家島コミュニティバス運行路線図



凡 例	
—	真浦ルート
⋯	午後延伸ルート
—	宮ルート
●	停留所

縮尺 1 : 10000

